

皆さん、おはようございます。今年の仕事納めに当たりまして、一言、ご挨拶を申し上げます。

今年を振り返ってみますと、いろいろなことがあったわけではありますが、そうした中で、やはり大きな出来事は、年末の突如の総選挙で3年3カ月振りに政権の交代があったということではないか、と思います。

秋の段階では、こうした事態はあまり予想されていなかったのではないかと思います。

しかし、政権交代があって、我々日本が、そして島根が直面する多くの問題が自動的に解決に向かうというわけではありません。そうした問題の背後にあります、世界全体の中で日本が置かれた状況は、依然これまでと同様なわけがあります。

従いまして、新政権におかれては、必要かつ適切な政策を実行されて、実効ある成果をあげていくことが必要であると思います。

この観点から、私ども地方の立場、あるいは島根県の立場から見ますと、長く低迷が続いております日本経済を中長期的にどう建て直すのか、そして、当面の課題としては、必要な景気対策をしっかりとっていく、また、地方交付税など地方財源をきちっと確保していただく、さらに遅れている社会インフラの整備などを進める、といったことなどが大事であります。

こうした点につきましては、総理は「政権に課せられた使命は、まず強い経済を取り戻すこと」だと言われ、当面の課題として、財政金融政策を総動員して景気回復を目指す考えだと伝えられています。

新内閣は、年明けには大型の補正予算を併せた、切れ目のない15ヵ月予算を編成すると言われております。

県もこうした動きに呼応いたしまして、年が明けますと、2月議会に向けまして、景気対策等必要な予算の編成を行っていく必要があると考えております。

こうした中で、今年は、島根が持つ地域の資源を大いに活用するという観点から、神々の国しまねプロジェクト、神話博しまねを実施したわけがあります。

結果的には、私たちが考えていたよりも多くの方々にこの島根にお出でいただいたと思っております。

これも、県民の皆様、各団体の皆様、そして県職員の皆さんの努力の成果であり、関係の方々に、改めまして御礼を申し上げる次第であります。

こうした勢いが来年の出雲大社の大遷宮、そして、その後も続くように、我々も努力を継続しなければならないと考えております。

今年一年、県庁各部署におかれて、皆さんにはそれぞれ忙しい一年であったと思います。県民の方々のために職務に精励をされ、一生懸命頑張っていたいただいたと思っております。その努力に対しまして、心から謝意を表する次第であります。

本年もあと数日で終わります。これから数日間の休みにおいては、ゆっくりと休まれて、来年からの仕事のための英気を養っていただきたいと思っております。

来年が県民の皆様にとりまして、明るく、活気のある年となりますよう、皆さんとともに一丸となって、取り組んでまいりたいと思っております。

県民の皆様、職員の皆様、それぞれよい年をお迎えになりますよう心からお祈り申し上げます。私からの挨拶といたします。